

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月24日			
平成15年度	事業コード	12120	電話	042-769-8347
担当部課名	保健所	生活衛生	課	環境衛生 班
事務事業名	医事・薬事等指導費（薬物乱用防止対策費）			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	生涯にわたる健康づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第1節	地域保健対策の充実	12年度
施策名	第2施策	快適で安全な生活環境	

2 実施根拠及び関連法令等

麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、あへん法

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

義務的経費

5 事務事業の分類

市単独事業

6 受益者負担

なし

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
広域化、低年齢化傾向にある薬物乱用問題に対処するため、地域における薬物乱用防止対策の充実強化及び啓発活動の推進を図る。	市民
	対象数 約600,000人
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
<ul style="list-style-type: none"> 薬物相談薬局講習会の開催 1回 薬物乱用防止街頭キャンペーンの実施 4回 相模原市薬物乱用防止連絡会の開催 1回 薬物乱用防止活動の支援 随時 	
(4)個別計画の概要	概要
計画名	
計画年次	年度～年度

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				12	13	14	15	16
成果指標	薬物乱用防止街頭キャンペーン事業実施率	事業実施回数/事業計画回数×100	計画どおり事業が執行できたかどうか評価する	100	100	100	100	100
活動指標	薬物相談薬局講習会の開催実施率	事業実施回数/事業計画回数×100	計画どおり事業が執行できたかどうか評価する	100	100	100	100	100

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額	103	520	254	224	224
	人員・時間数	0.7人/年	0.7人/年	0.7人/年	0.7人/年	0.7人/年
	人件費	5,873	5,873	5,873	5,873	5,873
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	5,976	6,393	6,127	6,097	6,097
特定財源		0	0	0	0	0
対象数		600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
対象の単位あたり経費		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

10 個別評価

(1)達成度 評価 A ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	成果指標や活動指標を毎年クリアすることで本事業の抱える問題の解決が完結を見ることが無い状況である限り永遠に達しないものと捕らえて継続的に対応すべきである。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 薬物乱用が低年齢化し、青少年が安易に薬物に手を出す傾向が強まるなど深刻な状況を打開し、拡大を食い止めるため、市が主体的に未然防止対策を効果的に推進することが求められている。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		本事業を発展的に拡大し、積極的に推進することが、上位施策の推進に繋がるものである。ただし、社会における薬物乱用防止推進は、本市の事業のみが因子ではないが、その一端を担う役割は大きい。
		説明	
(4)効率性 評価 A ▼	A:優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input checked="" type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input checked="" type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている <input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない
		説明	薬物乱用防止事業主管課としての経費は、研修会講師の謝礼と薬物乱用対策推進本部会への旅費だけであり、経済性・効率性は高いと言える。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	街頭キャンペーンやイベントのような啓発活動は、地域的に濃淡が出ることは否めないが、薬物乱用防止指導員が市内に配置されて地域における啓発活動を実施し公平性の確保に努めている。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> ない	説明: 更なる事業の充実及び積極的な取り組みにより、現在対応が遅れている成人の薬物乱用防止対策について、成果向上のための一翼を担うことは可能であると考えられる。	手段	これ以下の経費で上位施策を推進することは不可能。
		削減額	千円

11 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較 ほぼ同規模の事業を行っていると思われる他市における事業内容・費用・実績について比較しても、ほぼ同様の水準であると思われる。
今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	市民の要求に答えるためには、本事業は予防行政であるので、さらにコストを掛けることが必要不可欠である。しかし、本事業は本市のみの取り組みではないため、関係団体・機関と綿密に連携を図り、より効果的な手法は検討できるのではないかと考える。
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

--